

## 推薦のことば

現代社会では子どももストレスを抱え、出口を求めて悩んでいる。いじめや体罰の報道もあとを絶たない。不登校の子どもも多いと聞く。学校では教員が、それらを改善するための施策を続けていることも確かである。しかしその施策が、子どもの問題行動を指導するという思想に偏っていると、「上から目線」となり、子どもや親との対立を生んでしまう。

子どもを救うには、子どもをいかに理解するかにかかっている。どの子どもも、人をいじめようと思つて、学校に入学したのではない。よりよい人間になりたいと思つて、学校の門をくぐつたのであろう。どの親も、そのことを誇らしく思い、喜びと期待をもって子どもを学校に送り出したのだ。だからそこには教員がいるのだ。このことがすべての起点となる。

本書『本当は良い子になりたい』は、改めて気付かせてくれる。そして赤沼氏は、優しく語りかけてくれるのだ。

◇ 苦しいとき…生きていれば、苦しいときもあるよ、必ず。／そんなときこそ、真価が問われる。ただただ自分の不幸を嘆きなさんな。／笑い飛ばすだけの勇気を持たないなら、甘んじて不幸のどん底に沈んでみよう。／一度、充分に味わつてみたら、転機になるはずだ。／不幸だと思えることは、他人ができない貴重な体験の場なのだから。



◇弱さを出す：心が疲れたとき、泣きたくなったりは、もう自分を飾らずに弱音を吐こう。弱虫だ、泣き虫だ、と人からあざけられるかもしれないが、自分のそのときを大事にしよう。／そのままの自分を正直に表現できたら、誰かに受け止めてもらえたら、きつといつの間にか元気になっっているはずだ。／だから、もつと自分に正直に生きよう。

◇逃げるが勝ち：つらいこと、危険なことはいんどい。だから、そうなる前に逃げよう。／決して卑怯なことではない。／人として、自分の身を守る大事な行動なのだ。／落とし穴を避けて通ることは、決して非難されることではないからだ。／自分の力では背負い切れない困難が近付いたら、避けて通るのも、一つの立派な生きかたなのだ。

(以上、本書から一部抜粋)

このメッセージを読むと、子どもを育てる教育者あるいは親として意欲をもつことができる。また子どもに読み聞かせ、語り合いの場面を設けることで、子どもが悩める自分を引き出す場面をつくることもでき、さらには教員と親とが読み合うことでは、注意する・されるといふ係わりではなく、ともに子どもの育ちを願う場面をつくることもできる。

価値観の多様化という、子どもを育てることが不透明になっている現代に、本書をぜひ学校や家庭で生かしていただきたいと、切に願う次第である。

本当は良い子になりたい―目次



推薦のことば……………2  
はじめに……………4

第1章 悩む青少年に



1 ひとり立ちのとき……………12  
2 悩み……………13  
3 わずらわしいことをやる……………14  
4 あきらめるときも……………15  
5 気疲れのわけ……………16  
6 苦しいとき……………17  
7 自然の中で感性を磨く……………18  
8 言葉にしよう……………19  
9 人の話を聞く……………20  
10 自己主張をしよう……………21  
11 夜型生活……………22  
12 異質なものの出会い……………23  
13 人間にとつこの遊び……………24  
14 ミスをたくさん経験しよう……………25  
15 弱さを出す……………26  
16 自分を語れ……………27  
17 休み休み……………28  
18 期待は怖い……………29

## 第2章 子育て中の両親に

40	泣かれても妥協しない……………	53	46	愛するからこそ……………	59
39	先回りしない……………	52	45	「警察につかまるナ」……………	58
38	身体を動かす遊び……………	51	44	肌と肌との触れ合い……………	57
37	核家族……………	50	43	謝るときも……………	56
36	手本……………	49	42	ムダの効用……………	55
35	本当は良い子になりたい……………	48	41	待たせる……………	54
26	人をつながる……………	37	34	再出発……………	46
25	逃げるが勝ち……………	36	33	不安感……………	45
24	喜びの貯金……………	35	32	人を許すということ……………	44
23	つらさを耐える人に……………	34	31	「好き」の貯金……………	43
22	情性を育てる……………	33	30	あこがれの人……………	42
21	人を好きになろう……………	32	29	体験の蓄積……………	41
20	興味を持つ……………	31	28	一つだけのものさし……………	40
19	あいさつ……………	30	27	させつに弱いのは……………	39



63	再非行	76	80	学校の評価にとらわれない	93
62	泥んこ遊び	75	79	「出て行け」とい言葉	92
61	うそつき	74	78	家に帰りがらない娘たち	91
60	ガンコなわけ	73	77	おしゃべりを止めない	90
59	父親の左遷	72	76	良い聞き手	89
58	盗み	71	75	母子密着とは	88
57	成績表	70	74	任されると	87
56	無視	69	73	体罰	86
55	一人の存在	68	72	世間体	85
54	代理戦争	67	71	距離を置く	84
53	父親について	66	70	きょうだいの力	83
52	人生を楽しむ	65	69	ケンカは止めない	82
51	母親への恐怖心	64	68	無気力なわけ	81
50	お受験	63	67	待つてもらえると	80
49	「イヤだ」といえる子	62	66	安心感	79
48	弱音をはくとき	61	65	テレビを消して	78
47	過干渉	60	64	手仕事	77

81	競争が好き	94
82	ロウソクの灯	95
83	じいさん・ばあさん	96

### 第3章 教師と地域の人々に



84	勉強をわかりたい	98
85	ひとりぼっちの子ども	99
86	前兆	100
87	希望があれば	101
88	学校行事でしぼらない	102
89	LOVE	103
90	やさしさとは	104
91	遊ぶ子	105
92	安全な遊び場	106
93	人の支え	107
94	児童虐待	108
95	自由	109
96	社会病理克服のために	110

あとがきにかえて	111
----------	-----



## ひとり立ちのとき

大学を卒業するときに、自立するときではない。

就職するときに、自立するときでもない。

親の家から離れてひとり住まいするときに、自立するときでもない。

誰かと、親しく関係づくりができてこそ、一人前なのだ。

そうなのだ。知らない人とも共に生きていけるようになったときこそ、ひとり立ちのときといえる。

だから、表面的な形にとらわれる必要はまったくない。





## 悩み

悩みがあるときには、空を見上げてみよう。  
星を見つめてみよう。宇宙を感じられるよ。

大事なことは、そんなに多くないんだよ、本当は。

名誉も、金も、美貌も、あるに越したことはないけれど、たくさんあっても重いだけかもしれない。自分を見失ってしまうだけかもしれない。

悩むときは、まっとうなときだ。自分と向き合って。逃げないから。  
だから、たくさん悩めばよい。

悩みは 人らしく生きるきっかけになるだけだ。  
考えが深まるから。

そうすると、何が大事か見えてくるよ。命だ。自分の。人の。  
大事にしようよ。自分を。人を。



## わずらわしいことをやる

面倒くさい、わずらわしいことの最大なのは、人間関係だ。

人付き合いは、物づくりの工程表のように、合理的に運ぶはずはないので、人に近づけば、傷つくこともある。

傷つきたくないと思うと、個室で、ひとりぼっちで、機械に囲まれて過ごすことが多くなる。しかし、決して心が満たされることはない。

わずらわしさから逃げずに、外に出て、人と会おう。

「おはよう」「こんにちは」とあいさつし、そして一緒にお茶を飲み、ご飯を食べよう。

こんなあたりまえのことが、ひとりぼっちの心に、きっと生きる希望をもたらすはずだ。



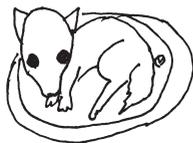
## あきらめるときも

ひとつのことに、何度も挑戦し続けることは、立派な生き方に違いない。

しかし、自分の実力を考えて、途中で断念することは、決して駄目な人間とあなどられるべきではない。

ひとつの道だけにこだわらず、別の道を選んで、才能を花開かせた人も多い。

たしか、あのフロイトも「断念できれば、人生は生き良い」とっているよ。





## 本当は良い子になりたい

子どもは誰でも、悪い子でいい…とは思っていない。むしろ良い子になりたい気持ちを秘めている。

しかし良い子になりたくても、誰からもほめられないので、良い子になれないと思いこんでしまっって絶望感にとらわれ、荒れる。

非行は、いらだちの表現であり、良い子でいられるように導いてくれない、親たちへの復しゅうである。

どうか「悪い子だ」「弱い子だ」と決めつけずに、関わって。彼らの話をよく聞いて、理解し、あきらめずに声をかけ続けて。

必ず、長所が見つかるから。長所をほめてやって。



## 手本

子どもたちは、親や教師など、周囲の大人の行動や評価を、鋭く学んでいく。

大人がほめること、喜ぶことを敏感に感じ取り、自分の中に取り込む。

大人が人のためにすることや、自分が不利になることを避けると、子どもも避けるようになる。大人がしないから。

いくら、「やさしい子になりなさい」といわれても、大人のやさしい行動を見ていないから、やさしくできないのだ。

大人が良い手本をしめさなきゃ。

